

## 巻頭言

夢を現実化する喜び。そして明るい未来へ

**Make Dreams Come to Reality. And Bring It to Bright Future.**

執行役員  
開発本部副本部長

今城 輝政  
Terumasa Imajo



「宇宙。それは最後のフロンティア…」 「Space, the final frontier…」  
という、冒頭のカーク船長の語りで始まる、SF シリーズドラマ、スタートレック。

宇宙を旅し、未開の地「フロンティア」へ挑戦する物語。難儀な旅（Trek）の多くは、夢の世界だが、それを見るのが、約 25 年前のアメリカ在住中の、筆者の楽しみの一つだった。

遠い未来の話を描いているが、そこに出てくる夢の中には、既に現実のものになっているものもある。「データ」という名前のアンドロイドだ。世の中に存在する、すべてのデータが、頭の中に入っており、船長の問いに、間髪入れずに応える、名サポート役。そんな彼の役割は既に現実のものとなっている。名前こそ、「Siri」や「アレクサ」と変わってはいるが、遠い未来の話が、現実化したものの代表例だ。

そんな、「夢を、現実化」することに、技術者としては大きな喜びを感じる。  
コマツでも、2008 年に導入した、無人ダンプ運行システムは、既に 600 台に達しようとしている、更に、動きの複雑な、大型ショベルや、ブルドーザの遠隔操作も実現化した。いずれも、ユーザーの行動様式まで変える、大きなイノベーションだ。  
まさに今の我々は、このような新しいイノベーションを産み出すチャレンジに、携われる喜びを存分に味わえている。

しかし、このような取り組みは、一朝一夕に成り立ってきたわけではない。今までの商品開発の中で、先人たちが種をまき、育て、積み重ねてきた、技術蓄積があるからこそ、今それが実現可能なものとなっているのである。更に、担当する技術者たちの努力、工夫、思考錯誤の繰り返し、スモールイノベーションを産み、積み上げてきた結果が、大きなイノベーションの具現化に、つながっていると考えている。

コマツでは、21 年、22 年度と、国交省の「スターダストプログラム」の「宇宙無人建設革新技術開発推進事業」に公募し、選定され、参画している。まだ夢の世界かもしれないが、しっかり種をまき、将来、実がなることを楽しみたい。

今年、コマツは、「電動化市場導入元年」と位置付け、3 トンおよび 20 トンの電動油圧ショベルを、日本、欧州市場に導入する予定だ。今、世界中で、カーボンニュートラルという、難儀な旅の最中である。そのような中「今世紀半ばに、オゾンホールが回復する見込み」とのニュースを聞いた。90 年代より取り組んできた、特定フロンから、代替フロンへの切り替えという、人類の努力が、地球環境保護に具体的な成果を与える、非常に明るいニュースである。これを聞き、地球温暖化も必ず、止めることができると、明るい未来を確信することもできた。

そんな明るい未来のためにも、「WARS」でなく、「TREK」（難儀な旅）に、我々の技術力を注いでいきたい。平和あってこそ、未来、そして環境保護。未永く、平和な日々が続き、これからも技術発展の種をまき続けられることを祈念する。